

# 行動型, 参加型アクティブ・ラーニングとFD, SD

代表発表者： 県立広島大学 総合教育センター 馬本勉  
 共同発表者： 県立広島大学 本部教学課 川口博之, 濱田縁, 伊藤俊



## 1 県立広島大学について

- 県立広島大学は2005年に、広島県内の3つの県立大学が統合し開学。
- 広島市, 庄原市, 三原市の3キャンパスに加え, 2013年にはサテライトキャンパスを開設。「地域に根ざした, 県民に信頼される大学」を目指す。
- これまで県立広島大学は「遠隔講義システムの導入」や「全学共通教育の見直し」といった, 3キャンパスが一体となった教育改善に取り組んできた。
- 一方で, 学生の授業外学修時間が伸びないこと※1, 3キャンパス間での学生同士の交流が十分に図れていないこと等については, 長らく課題とされてきた。

※1 新入生意識調査の結果より



## 2 行動型, 参加型アクティブ・ラーニングの推進

- 本学は平成26年度, 文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」事業の「テーマI: アクティブ・ラーニング」に採択され, 学生の主体的な学びを引き出す能動的学修の更なる推進に着手している。
- 本学が推進する県立広島大学型アクティブ・ラーニング(Campus Linkage Active Learning: CLAL)は, 広島県全域をフィールドとして教室外での学びを取り入れる「行動型アクティブ・ラーニング」, 新たな教授法の開発・導入により学生の知的能動性を揺り動かす「参加型アクティブ・ラーニング」を基盤としている。
- この2つのALを推進することで, キャンパスの枠を超え, 知的能動性にあふれた新たな学びの形を展開していく。



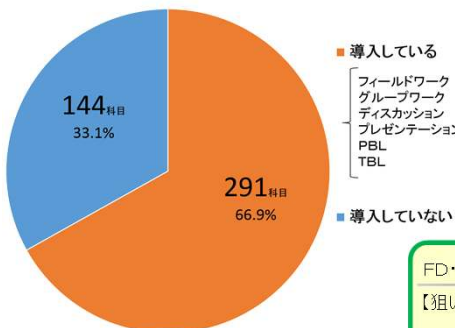
### 県立広島大学型アクティブ・ラーニング Campus Linkage Active Learning【CLAL】

<p><b>教室外での学びを取り入れる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間交流</li> <li>・キャンパス間交流</li> <li>・地域との交流</li> <li>・異文化交流</li> </ul> <p>→ <b>各キャンパスに拠点を置いた地域活動</b></p> <p>フィールドワーク 現場体験 インターシップ 学修成果発表会</p>	<p><b>行動型AL</b></p> <p>学生の主体性を育む 能動的学修</p>	<p><b>参加型AL</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働学修</li> <li>・反転授業</li> <li>・プロジェクト学修</li> <li>・双方向授業</li> </ul> <p>→ <b>学修意欲・自主性を引き出す学びのスタイル</b></p> <p>振り返り プレゼンテーション ディスカッション ICT機器活用</p>	<p><b>知的能動性を揺り動かす</b></p>
---	--	---	---------------------------

## 3 CLALの実質化を加速するFD, SD

- 平成26年度に実施したAL導入状況に関する学内調査※2では, 既に約7割の授業で導入済みという結果が得られた。
- 一方で, ALにより学生の自律性を高め, 授業外学修時間の増加へとつなげるには, ALの更なる質の向上が必要である。
- AP事業を通じて, 本学が実施してきたFD, SDを更に発展させ, CLALの実質化を加速させていく。

全回答435科目中のアクティブ・ラーニング導入率



CLALを実質化する  
FD, SDの充実

### FD事例 ファカルティ・ディベロッパー(FDer)の養成

**【FDerの役割】**  
 アクティブ・ラーニングを実践し, その波及・浸透に努める。最終的には, アクティブ・ラーニングの視点から学部・学科のカリキュラムへ提言を行うことを目指す。

**【養成人数】** 各学科2人以上, 全学で30人以上

**【養成方法】** 3つのプログラムを段階的に実施する。  
 入門編(H27) ⇒ 応用編(H28) ⇒ 実践編(H29)



### FD・SD共通 学修アドバイザー養成に係る教職協働

**【学修アドバイザーについて】**  
 学修アドバイザーは学生同士の学修支援の充実を目的として養成する。主に各キャンパス図書館ラーニング・コモンズで, 他学生の主体的な学びを支援する。

**【学修アドバイザー養成に係る教職協働】**  
 教員と職員との協働により, 学修アドバイザー養成講座の運営やラーニング・コモンズの継続的な整備を行うことで, 学生同士がともに学び合う環境を構築していく。



### FD・SD共通 先進事例調査・研修参加の促進と学内フィードバック

**【狙い】** FDや授業改善に係る先進事例調査や, 研修等への積極的な参加を支援し, 全学的に促進する。得られた知見や情報を学内で共有し, 情報の「収集」と「共有」の好循環を図る。

**【学内フィードバック】** 教員…全学FD研修会やFDer養成講座等での報告を通じて, 全学へ情報を発信する。職員…課内で行う「フィードバック研修」にて報告し, 出席者と情報を共有する。  
 (本部教学課で先行実施)



## 4 FD, SDの課題: 全学的な共有へ

CLALの推進に係る本学のFD, SDについて, 次の2点が課題として挙げられる。

- (1) FDの課題**…ALの導入状況やFD推進の意識について, 学部・学科間で差がみられる。全学的なつながり(Campus Linkage)を謳う本学のAP事業においては, 学内でFDを推進する意義・目的を強く共有し, 合意形成を図っていくことが, 効果的なALの導入につながると考えられる。
- (2) SDの課題**…各種研修等で得られたALに関する情報やノウハウを事務局内で共有する機会について, 現状では本部教学課で行うフィードバック研修での報告に留まる。全学的な職員研修との連携等により, 先進的な情報を広く共有していく必要がある。